

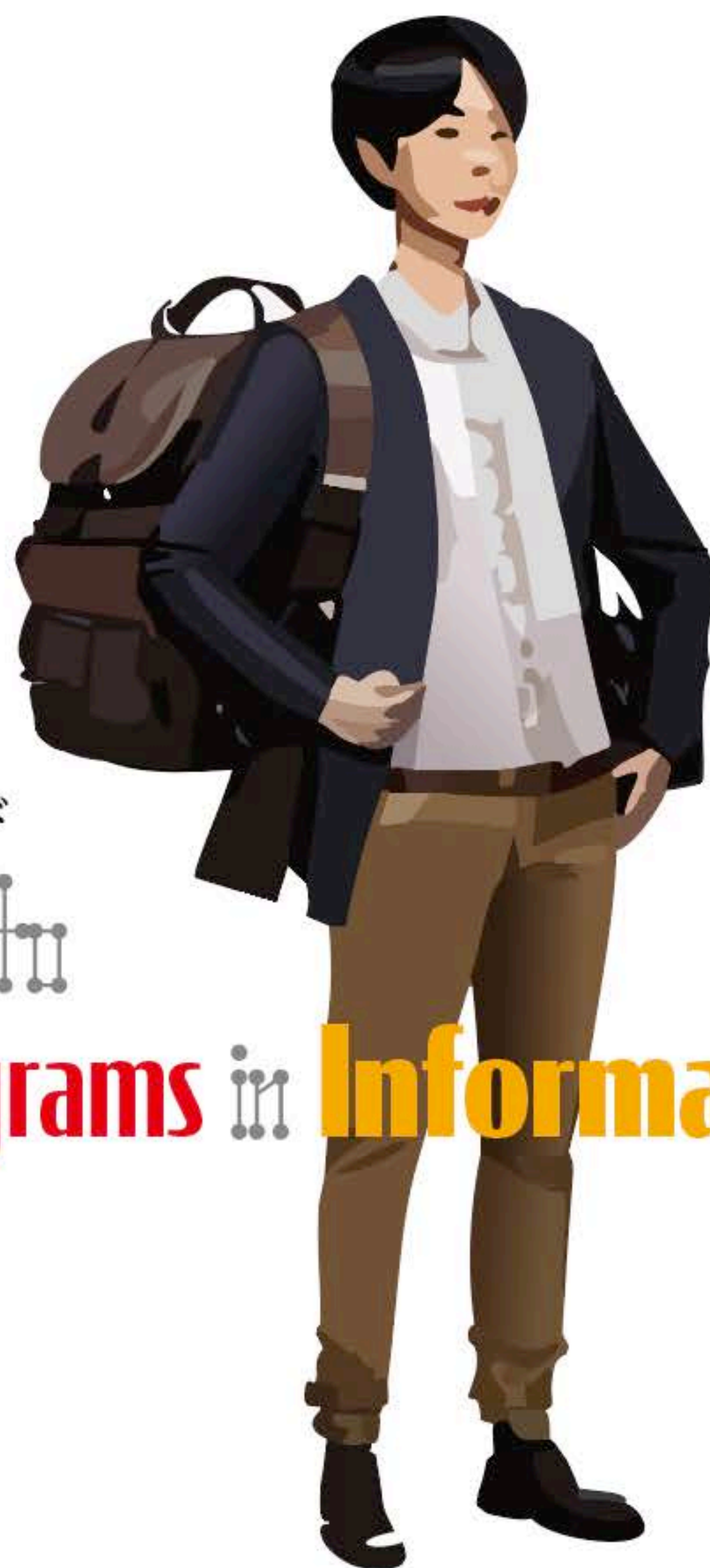
of Tsukuba

& Doctoral Programs in INFORMATICS

Graduate School of Comprehensive Human Sciences



筑波大学
University of Tsukuba



情報学 学位プログラムへのヒッチハイク・ガイド

Hitchhiker's Guide

Master's & Doctoral Programs Informatics



2024-2025



JE

<https://informatics.tsukuba.ac.jp>

What is the Degree program in informatics?



「ゆく川の流れは絶えずして、しかも元の水にあらず」
これは鎌倉時代（13世紀）の随筆『方丈記』の冒頭の一節です。この世は常に変化しており、一瞬たりとも同じではないという意味です。情報も同様で、世界とともに流転します。

川の流れのように常に化する情報をとらえるためには、複数の領域にまたがる学際的な視点から研究する必要があります。学際的であるとは、単一の専門分野で扱うには広範で複雑すぎる課題に対して有効なアプローチです。複数の領域の方法論を単純に適用するだけでなく、新しい方法論を開発し、知見を統合することで課題を解決します。

情報学学位プログラムは、世界中のデータを知識として再構成し、文理融合の方法論を開発することで、世界の複雑な課題を情報の観点から解決することを目標としています。本学位プログラムには、哲学、社会思想史、メディア技術史、人間情報学、文化人類学、デジタルネイチャー、デジタルヒューマニティーズ、生命情報、ロボット、集合知、ソーシャルメディア、知識コモンズ、情報法、図書館、博物館、アーカイブズなど、多彩な専門家が集まっています。

情報学学位プログラムに興味を持った方はぜひともWebサイトにアクセスしてください。情報学学位プログラムの全容を知れば、必ず入学したくなるでしょう。

情報学学位プログラムリーダー
宇陀則彦



筑波大学大学院
人間総合科学学術院
人間総合科学研究群

*Master's and Doctoral Programs in Informatics,
Degree Programs in Comprehensive Human Sciences,
Graduate School of Comprehensive Human Sciences,
University of Tsukuba*





Programs/Courses



■ 博士前期・後期課程

人間の活動において情報は重要な役割を果たして来ましたが、近年の技術の進展とともにその重要性は急激に増しております。その様な状況に対応するため博士前期・後期課程では、文理融合の学際的アプローチにより情報を学術・教育・生活・文化等に活用するための専門的業務に携わる人材を養成します。各課程のディプロマ・ポリシーは、WEB からご確認ください。

■ コース

図書館経営管理コース

図書館・博物館・文書館資源管理コース

認証アーキビスト制度

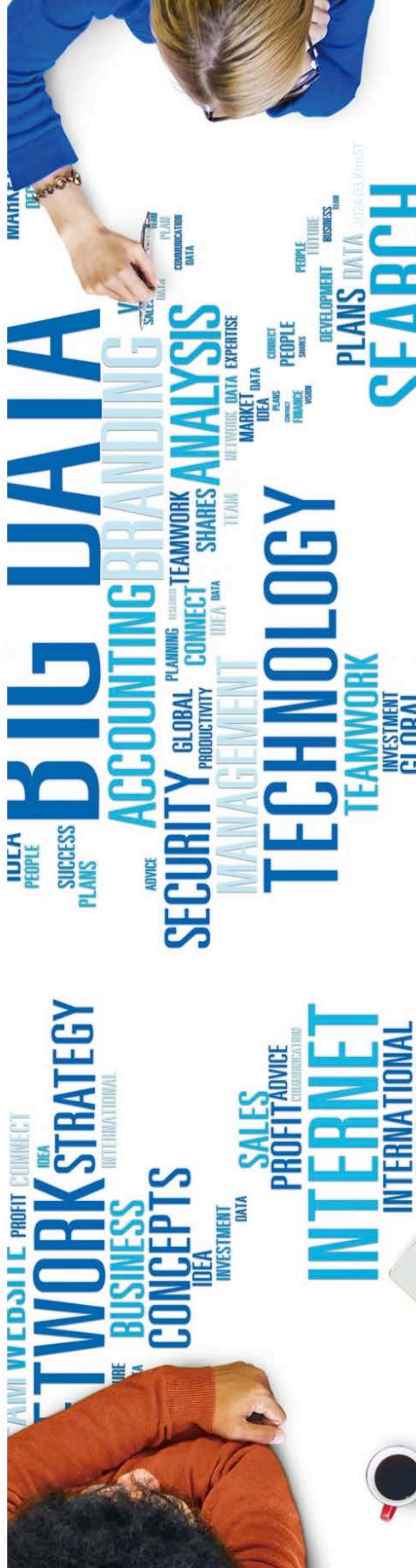
■ 支援制度

TA・RA・チューター

学会発表支援制度

雑誌掲載・別刷支援

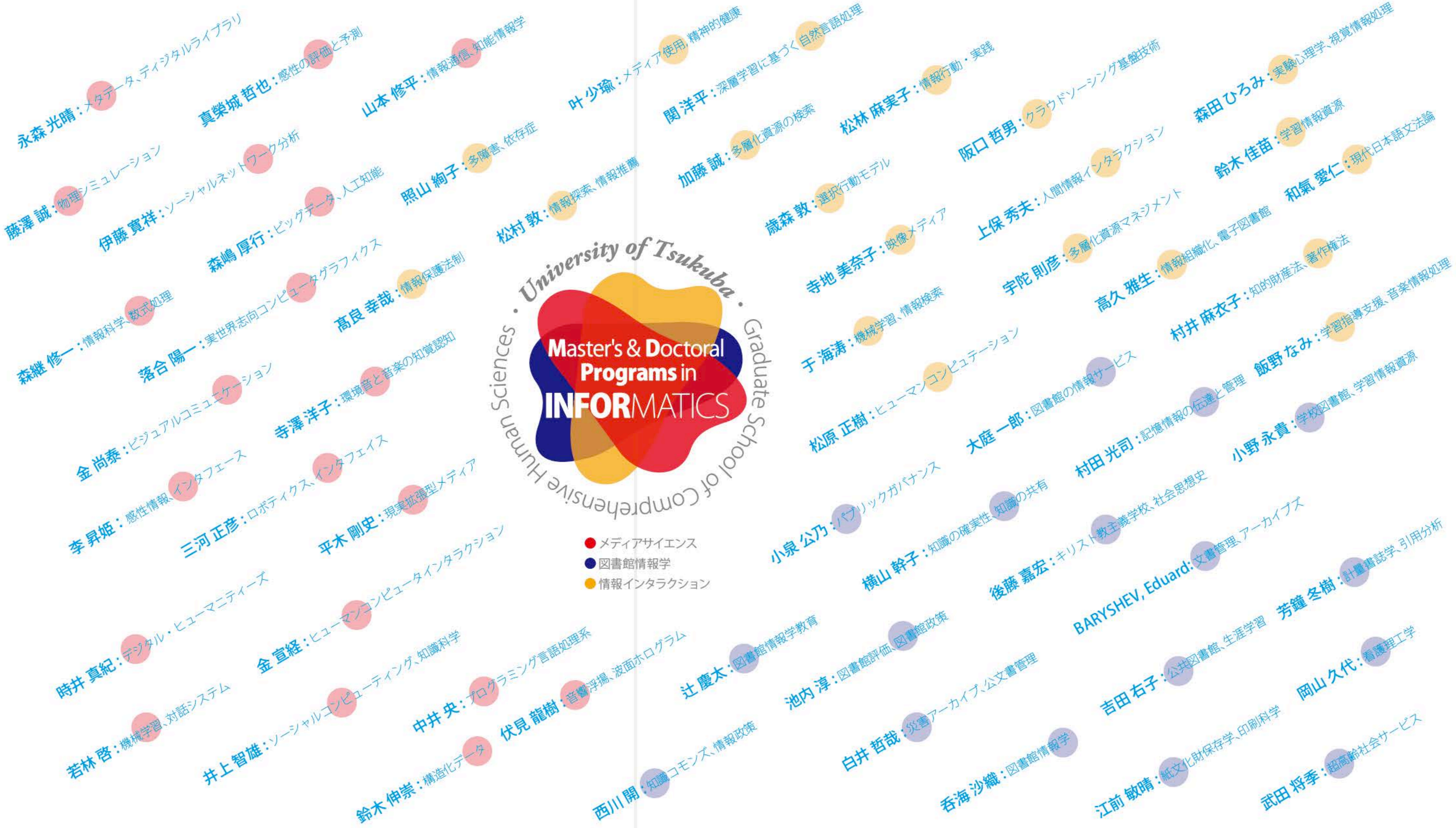
奨学制度・就学支援





Academic Staff

本学位プログラムは大きく3分野に分けられています。
研究指導資格確認・研究キーワードや詳細はWEBをご参照ください。





Admission Information

*年度別に実施日の変更があります。詳細はWEBをご参照ください。

■ 入試概要

情報学学位プログラムでは、優秀な人材を幅広く募集するために、推薦入学試験（7月実施）、一般入学試験（8月実施、1-2月実施）、社会人特別選抜（8月実施、1-2月実施）、英語受験者特別選抜（1-2月実施）のように形態の異なる入学試験を同一年度内に実施しています。入学試験科目には英語試験、口述試験、書類審査があります。各入学試験は博士前期課程、博士後期課程ともにアドミッションポリシーに従って実施されます。

■ 博士前期・後期課程

情報学学位プログラムは、文系・理系といった区分を越えた新しい学問領域の開拓を目指し、学際的でさまざまな領域の研究が行われていることから、学群・学部段階での専門領域にこだわらず、分野・経歴・年齢・国籍を問わず、学ぶ意欲・研究意欲の高い人を幅広く受け入れます。

■ 早期修了・長期履修制度

本学位プログラムでは、職業等に從事しながら学習を希望する人のための長期履修制度のほか、条件を満たせば早期修了も可能です。詳細はWEBをご参照ください。

■ 研究生・科目等履修生

研究生制度は、特定の専門事項について研究指導担当教員のもとで研究を行える制度です。日本人と外国人では出願方法が異なります。

科目等履修生制度は、本学大学院の授業科目の履修を認め、一定以上の成績を修めた場合に正規の単位を授与する制度です。



Student's Voice ●●●



博士後期課程 1 年
菅野裕樹 (小泉研究室)

私は博士後期課程 1 年生で、現在他大学で非常勤講師もしています。研究活動についていえば、今の研究室は没頭できる良い環境です。私にとって、平日の昼間に共同研究室でゼミのメンバーと話す時間などは、研究活動だけでなく学生生活の良い刺激になります。自身の研究活動から離れると、博士後期課程の学生として、これまで先輩方がそうであったように、後輩の研究に対するアドバイスやゼミのイベントの開催など、研究に関するマネジメントの役割が求められます。私はコミュニケーションがあまり得意な方ではありませんが、自分の世界に引きこもらず、他者や社会と関係を築くことは自己の成長にとって重要だと思っています。そういう意味では、自身の研究に、研究室の運営や幸運にも得た非常勤講師の機会も含めて、とても充実した学生生活を送っています。



博士前期課程 1 年
田邊優斗 (鈴木伸崇研究室)

現在、私は情報学学位プログラム (博士前期課程) に在籍しています。人間と情報に関する課題に興味があり、自由度の高い選択科目を通じて、Python プログラミングや機械学習のスキルを磨き、課題解決能力を向上させています。また、授業内容は多岐に渡り、理系だけでなく文系の学際的なアプローチにも触れます。理系的な視点に加え、文系的な視点から問題を考えることで、文理融合のアプローチを身につけることができるのが、この学位プログラムの魅力です。ここでの学びを通じて専門的な知識と実践的なスキルを習得し、将来的には情報技術の分野での研究や社会実装に活かしたいと考えています。



博士後期課程 1 年
稲田和巳 (金尚泰研究室)

私は情報メディア創成学類から博士前期・後期課程と進み、いまの研究室に所属して 4 年目です。博士後期課程からは JST の給付型支援やリサーチ・アシスタントの給与で生活しています。自宅が研究室にほど近く、両方を行き来しながら、自分の研究活動や後輩とのディスカッションをして過ごしています。必修の授業の時間はほとんどなく、同じ専攻の同期とのやりとりも多くはありませんが、資格取得関連や興味のあるものを中心に学群・博士前期課程の授業を受講したり、学内の他専攻や他大学の学生との交流を持ったりしています。望めば専攻内・学内だけでも多様な分野に触れられるのは、情報学学位プログラムのよいところであると感じています。



博士前期課程 1 年
井上直紀 (若林研究室)

私の学生生活は、研究が中心です。私の所属している研究室は週に 2 回のオフィスアワーが設けられており、その内の片方で一週間の進捗報告を行います。卒業に必要な履修科目数は、大学の頃に比べて少なくなります。その分、多くの時間を研究に充てることができるようになります。その時間を活用して、これからの研究の方針を模索するために本や論文を読んだり、プログラムを書いたりしています。学部生よりも研究に向き合う時間が増えたことは、進学して良かったと思える理由の 1 つです。卒業研究で見つかった見識の狭さや技術的な不足に関する多くの課題を自分なりに解決することが出来るからです。自分にとっての大学院生活とは、研究の中に自分を置き、その中で常に考え続ける行為であると言えます。

Access



■ 筑波キャンパス(春日エリア)

鉄道 秋葉原からつくばエクスプレス快速に乗ると45分で「つくば駅」に到着。JR常磐線ひたち野うしく駅、荒川沖駅、または土浦駅で下車し、「つくばセンター」行きと、もしくは「筑波大学中央」行きのバスに乗ると、約30分で「つくばセンター」に到着。

高速バス：東京駅八重洲南口高速バスターミナル発「筑波大学・つくばセンター」行きに乗ると、約70分で到着。

徒歩：「つくば駅」(A1, A2 出口) または「つくばセンター」から徒歩約10分。

車：常磐道「桜土浦IC」で降り、東大通りを約5.2km北上し、左折して北大通りに入り、2つ目の信号を左折すると「筑波大学筑波キャンパス(春日エリア)」に到着。

飛行機：空港から高速バスで「つくばセンター」まで、羽田空港から約100分 / 成田空港から約60分 / 茨城空港から約60分で到着。

■ 東京サテライト

地下鉄：東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷駅」M23下車。徒歩2分で「筑波大学東京キャンパス文京校舎」に到着。

